

| 科目名 | 科目区分 | 科目概要 | 到達目標(成績評価A) | 単位修得目標(成績評価C) |
|------------------|------------------|--|--|---|
| ビジネス入門 | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、「経営」「マーケティング」「経済」「会計」の各分野を学ぶ目的や学問体系を理解するための導入教育である。オムニバス形式により、各分野の教員がビジネス社会と関連付けて専門分野を概説するなど、学修を始めるための関心と意欲を向上させる。各分野を系統的に学び、ビジネス社会で活躍するために必要な知識・技能を修得する重要性を理解する。 (オムニバス方式/15回) 第1回:導入、第2回:経営分野の経営戦略論等、第3回:経営分野の経営基礎等、第4回:経営分野のビジネスと法等、第5回:マーケティング分野の流通論等、第6回:マーケティング分野のマーケティング・コミュニケーション等、第7回:マーケティング分野のマーケティング基礎等、第8回:マーケティング分野の統計学等、第9回:経済分野のミクロ経済学や公共経済等、第10回:経済分野のミクロ経済学や国際貿易等、第11回:経済分野のマクロ経済学等、第12回:会計分野の会計基礎等、第13回:会計分野の会計基礎等、第14回:会計分野の原価計算等、第15回:まとめ | ・自分が興味を持った最近のビジネスの問題について明快に説明ができ(関心・表現)、「経営」「マーケティング」「経済」「会計」「法律」「情報・統計」の少なくとも一つの方の立場からの簡単な解説を行うことができる。(知識・理解、思考・判断、表現)◎ | ・ビジネス学部4年間で学修する内容の全体像や「経営」「マーケティング」「経済」「会計」の各分野を学ぶ目的及び学問体系を理解する。(知識・理解)◎ ・「経営」「マーケティング」「経済」「会計」の各分野とビジネス社会の関連を踏まえて、今後、より深く学修したい分野や科目を明確にする。(関心・意欲・態度)◎ |
| 経営基礎 I | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、経営学の導入であり、この科目の後に開講される経営学分野の種々の基礎科目・専門科目の学修の前提や指針となる。経営学の基本的な全体像を、事例を中心に据えながら概説し、企業経営の現実を客観的・理論的に見るための幅広い基礎的視点を修得する。 具体的には、企業の実情や経営の事例を用いながら、現実に行き詰っている様々なことに対して経営学の諸理論がどのように説明しているのかを理解する。また、会社の役割、会社の仕組み、製造過程の管理、社員の行動、人材育成の仕組み、製品販売のやり方、会社の戦略、海外での経営のやり方などを扱いながら企業経営の流れ全体も重ねて理解していく。 | ・経営学の各分野における基礎知識を習得している。(知識・理解)◎ ・企業管理の初歩的なツールを理解し、用いることができる。(技能)◎ ・経営学の基礎的な概念と理論を用いて、企業の実際の活動や企業経営の現場で起きている諸問題を理解し、表現することができる。(思考・判断・表現)◎ ・経営学が扱う様々な論点を理解し、これから経営学を学んでいくうえで関心を広げていくことができる。(関心・意欲・態度)△ | |
| マーケティング基礎 I | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、マーケティングの基礎概念を身につけること、マーケティングの様々な基礎概念の関連性を理解できること、現実の企業活動のなかでどのようなマーケティングが行われているか理解できることを目指しており、マーケティングに関連する基礎的な概念と考え方を身につけることで、可能な限り自分で使えるようになることを目的とする。マーケティングはどのような発想に基づいて展開されているのか、またマーケティングはどのようにして限られた業務を担った企業の一部門の活動から、組織全体で取り組む事業活動へと変わったのかなどについて、具体的な事例を通じて学ぶ。なお、授業終わりにリアクションペーパーを書いてもらうことで、学修成果の把握の一助にする。 | ・マーケティングの基礎的な理論を修得している。(知識・理解)◎ ・マーケティングの基礎的な理論に基づいて、ケース分析を行うことができる。(技能)◎ ・企業のマーケティング活動を考察し、顧客の課題解決について表現できる。(思考・判断・表現)◎ ・組織全体で取り組む事業活動としてのマーケティングに関心を保持している(関心・意欲・態度)△ | ・マーケティングの基礎的な理論を修得している。(知識・理解)◎ ・マーケティングの基礎的な理論に基づいて、ケース分析を行うことができる。(技能)◎ |
| ミクロ経済学基礎 I | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、ミクロ経済学の基礎を学修することでミクロ経済学の観点による考え方や捉え方の基礎を身に付けることを目的とする。市場が経済社会においてどのような役割を果たすかを大まかにとらえた後、個々の家計・企業がどのような経済行動をするかをまず分析する。その上で、供給曲線、需要曲線、生産者余剰、消費者余剰等の概念を理解し、また価格が限界費用、限界効用等に等しくなることも理解する。市場における資源配分が最適であるという厚生経済学の基本定理を理解することを目標とする。 | ・この授業では、需要・供給と市場に関する様々な場合の知識を有している。(知識・理解)◎ ・需要と供給、消費者余剰と生産者余剰について分析の技術を身に付ける。(技能)◎ ・市場に関する知識や分析技能に基づいて、現実の経済における市場の在り方について考察したり、厚生経済学の基本的考え方を表現したりすることができる。(思考・判断・表現)◎ ・日本や世界の実際の経済問題について主として需要・供給と市場の観点から理解と対応について検討する意欲を有する。(関心・意欲・態度)△ | ・需要・供給と市場に関する一定の知識を有している。(知識・理解)◎ ・需要と供給、消費者余剰と生産者余剰について分析の手法を知っている。(技能)◎ ・市場に関する知識や分析技能に基づいて、市場の在り方について直感的に捉えたり、厚生経済学の基本的考え方を応用する知識を有している。(思考・判断・表現)◎ ・日本や世界の実際の経済問題について主として需要・供給と市場の観点から理解と対応について検討する目標に基づいて作業 |
| 会計基礎 I | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、会計手続の基礎として、個人事業の簿記システムを対象とした簿記一巡の手続きについて学ぶ。位置づけとしては簿記・会計分野の全ての基礎となる。簿記の目的は①一定時点での財政状態を明らかにすること【どのように資金を調達し、どのように運用しているかを示すこと】、および②一定期間の経営成績を明らかにすること(いくら費やして(費用)どのくらいのリターン(収益)があったのか、またその差額(利益または損失)を明らかにすること)であり、その目的を達成するために、さまざまなルールが設けられている。まずはこれらのルールを学び、仕訳から決算までの概要を理解する。なお、「会計基礎 I・II」での学修を通じて、日商簿記3級程度の内容を修得する。 | ・会計情報の意義を理解し、その理論的枠組みの基礎知識を修得している。(知識・理解)◎ ・複式簿記の原理に基づき、全般的な会計データを集約する技能を身に付けている。(技能)◎ ・会計情報を利用しようとする意欲を有している。(関心・意欲・態度)△ | ・会計に関する専門用語の定義を説明することができ、会計情報の意義を理解している。(知識・理解)◎ ・複式簿記の原理に基づき、日常取引を仕訳することができる。(技能)◎ ・会計情報の利用に関心をもちようとする意欲を有している。(関心・意欲・態度)◎ |
| 会計基礎 II | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、会計手続の基礎として「会計基礎I」で学んだ簿記一巡の手続きに基づき、さらに各勘定別記帳方法を学ぶ。対象企業を株式会社とし、「会計基礎 I」よりも複雑な手続(株式会社固有の手続)を扱うことで、会社法や金融商品取引法に規制される株式会社の仕組みも理解できるようにする。具体的には商品売買取引の記帳方法を3分法とし、個別取引、決算手続、および8桁精算表の作成、財務諸表の作成等を学修する。あわせて、資本金や利益に関して会社法の規定に沿った処理方法を学ぶ。なお、「会計基礎 I・II」での学修を通じて、日商簿記3級程度の内容を修得する。 | ・会計における理論的枠組みの基礎知識を修得し、会計データを会計情報に加工する仕組みを理解している。(知識・理解)◎ ・複式簿記の原理に基づき、基礎的な会計情報を作成することができる。(技能)◎ ・企業の財務内容に関心があり、会計情報を利用しようとする強い意欲を有している。(関心・意欲・態度)△ | ・会計における理論的および制度的枠組みの基礎知識を修得している。(知識・理解)◎ ・複式簿記の原理に基づき、決算整理を行うことができる。(技能)◎ ・会計情報の利用に関心をもちようとする意欲を有している。(関心・意欲・態度)◎ |
| リーダーシップ開発入門演習 I | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、成果目標を共有し、自ら主体的に活動するとともに、他者を支援することの重要性を理解する入門科目である。具体的には、企業、公的部門もしくはNPO法人等の事業体に関する課題が盛り込まれたケースを教員が提示し、学生は複数のグループに分かれ、各グループで課題解決策を検討するためにグループワークを重ねていく。その後、各グループより発表される課題解決策について、教員が評価・フィードバックを行う。授業の各段階において、各グループが分析結果や解決策のディスカッションを行い、また資料等の作成をすることで、思考力や表現力を鍛え、同時に、メンバーの多様な価値観や異なる持ち味を生かし、グループを目標に向かって動かしていく上で必要な主体性やコミュニケーション能力を養う。 | ・リーダーシップの発揮において、論理的思考や多様性を理解したコミュニケーションが必要であることを理解する。(知識・理解)◎ ・リーダーシップの発揮において、論理的思考と多様性を理解したコミュニケーションスキルを伝えるようになる。(技能)◎ ・一般的なグループ活動プロセスを振り返り、それぞれがどのようなリーダーシップを発揮しグループの成果にインパクトを与えたのか、そして、その学びを今後の行動にどのような活かすのかを考察し、共有することができる。(思考・判断・表現)◎ ・自分らしいリーダーシップの探究を通じて、グループ内や授業内における主体的な学びと他者との協働によって成長することへの関心、意欲が醸成される。(関心・意欲・態度)◎ | ・リーダーシップの発揮において、多様性を理解したコミュニケーションが役に立つことを知る。(知識・理解)◎ ・リーダーシップの発揮において、論理的思考と多様性を理解したコミュニケーションスキルを初歩的に使えるようになる。(技能)◎ ・一般的なグループ活動プロセスを振り返り、それぞれがどのようなリーダーシップを発揮しグループの成果にインパクトを与えたのか、そして、その学びを今後の行動にどのような活かすのかを観察し、考えることができる。(思考・判断・表現)◎ ・自分らしいリーダーシップの探究を通じて、グループ内や授業内における主体的な学びと自身が成長することへの関心、意欲が醸成される。(関心・意欲・態度)◎ |
| リーダーシップ開発入門演習 II | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、教員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生同士が切磋琢磨し刺激を与えながら成長することを目指す。具体的には、リーダーシップ開発入門演習 I でグループワークを通じて引き出される思考力、表現力、主体性等について振り返った上で、自らの行動について、他者にはどのように映ったのか、自分は他者の行動をどのように感じたのか、何が不足していたのか、何が効果的だったのか等、相互フィードバックを行う。この相互フィードバックを通じて、自己理解や他者理解を深めると同時に、主体的に学ぶことや他者と協働することの関心・意欲・態度を涵養する。また、今後、自分らしいリーダーシップを発揮し実現したいことを論理的に思考し、表現する力を養成する。 | ・グループワークを通じた課題解決において、個々のリーダーシップの発揮が重要であること、リーダーシップの実践に最小三要素(1. 目標共有 2. 率先垂範 3. 相互支援)が必要であることを理解する。(知識・理解)◎ ・グループワークと課題解決において、自ら主体的に行動するための基本的なコミュニケーションスキルを伝えるようになる。(技能)◎ ・グループワークと課題解決においてどのようなリーダーシップを発揮するかを考察し、メンバーに共有することができる。(思考・判断・表現)◎ ・グループワークと課題解決において、グループとしての成果を高めるために自分ができることを他者に示すと同時に、他者の協力を仰ぐことができるようになる。(関心・意欲・態度)◎ | ・グループワークを通じた課題解決において、個々のリーダーシップの発揮と、リーダーシップの実践に最小三要素(1. 目標共有 2. 率先垂範 3. 相互支援)が伴うことを理解する。(知識・理解)◎ ・グループワークと課題解決において、自ら主体的に行動するための基本的なコミュニケーションスキルを部分的に使えるようになる。(技能)◎ ・グループワークと課題解決においてどのようなリーダーシップを発揮するかを考察し、メンバーに共有することができる。(思考・判断・表現)◎ ・グループワークと課題解決において、グループとしての成果を高めるために自分ができることを他者に示すことができるようになる。(関心・意欲・態度)◎ |
| 経営基礎 II | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、経営学の導入であるが、「経営基礎I」の内容を理論的に深めていくことをねらいとしており、経営学の様々な基礎的視点の基盤となっている重要文献について概論的に学ぶ。学問における諸理論にはそれが前提としている基本文獻というものがああり、それを応用したり批判したりすることで学問的発展が得られている。経営学が時代とともにどのように発展してきたのか、経営学が、経済や社会、産業発展の要請に対してどのように進化してきたかについて学修する。「経営基礎I」と「経営基礎II」について、大きくは「経営基礎I」は事例、「経営基礎II」は主要学説が登場した各文獻とそれぞれ異なるアプローチから共通して経営分野の基礎的内容を概論的に扱うため、両者の学修を通じて経営学の基礎理論を理解する。 | ・この授業で説明する経営学説の諸理論を経営学教育の基礎として修得している。(知識・理解)◎ ・経営学説で取り上げる文献を、現代の経営課題を解くツールとして活用することができる。(技能)◎ ・経営学説の諸理論を考察することにより、経営学発展の可能性を思考し、それを表現することができる。(思考・判断・表現)◎ ・時代と共に変化するビジネス環境に関心をもち、社会の変動が経営学にどのような影響を与えてきたかについての学修意欲を有している。(関心・意欲・態度)△ | |
| 経営戦略論 I | ビジネス学部 専門基礎科目 | この科目は、経営戦略論の基礎を学ぶ。「経営基礎I」、「経営基礎II」で扱う主要理論・主要学説の中で経営戦略論にとって重要なものを、時には反復的に事例に対して適用することで「経営基礎I」、「経営基礎II」の理解を徹底し、また時には応用的な内容を扱いながら経営戦略論にとって必要な視点を学修する。 具体的には、経営戦略の理論を応用するために考案された数多くある戦略手法やツールの中から基本的なものを取り上げ、それらを「環境分析」、「成長戦略」、「競争戦略」などの流れに沿って学ぶことで、戦略策定プロセスと経営戦略の基礎理論を修得する。さらに多少の応用として、近年重要性を増している戦略的提携、海外経営戦略、新たな社会戦略であるCSV(共有価値創造)等に関しても理解を深めることで、企業の経営戦略を分析できる能力を身につける。 | ・企業や組織が将来目標を達成できるか否かに関して、環境条件を分析する能力を備え、目標達成手段としての基礎的な経営戦略理論を修得している。(知識・理解)◎ ・企業経営やビジネス上の問題について、経営戦略の主要理論を活用し分析することができる。(技能)◎ ・経営戦略の知識をもとに、経営者・管理者の立場にたつて経営課題の解決方法とその判断理由を論理的に表現することができる。(思考・判断・表現)△ ・ケース・スタディーを通じた企業活動の分析に興味・関心を有し、経営戦略の考え方や応用方法について高い勉学意欲を有している。(関心・意欲・態度)◎ | |

| 科目名 | 科目区分 | 科目概要 | 到達目標(成績評価A) | 単位修得目標(成績評価C) |
|--------------|------------------|--|--|---------------|
| 経営組織論 I | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、経営組織論の基礎を学ぶ。「経営基礎I」、「経営基礎II」で扱われる主要理論・主要学説の中で経営組織論にとって重要なものを、時には反復的に事例に対して適用することで「経営基礎I」、「経営基礎II」の理解を徹底し、また時には応用的な内容を扱いながら経営組織論にとって必要な視点を修得する。具体的には、経営組織論の最重要古典の一つであるC. I. バーナードの『経営者の役割』の各章の展開に沿いつつ、経営組織論における視点並びに関連する諸学説を解説していく。内容としては、組織論の大前提となる「組織の定義」から始め、「組織構造」や「組織文化」といった観点から組織を総合的に捉えることを目的とした「マクロ組織論」や、組織メンバーの心理的側面に重心を置いている「ミクロ組織論」の基礎的項目について触れ、経営組織論の全体像を学修する。なお、この科目は「経営組織論II」や「人的資源管理論」の前提となるものである。 | ・「組織」の概念や定義を理解している。(知識・理解)◎ ・組織現象に関する抽象的説明を理解している。(知識・理解)◎ ・抽象的に説明される組織現象を現実の事例に適用して検討することができる。(思考・判断・表現)◎ | |
| マーケティング基礎 II | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、マーケティング基礎 I で取り扱う内容をふまえて、マーケティングの基礎概念の理解を深め、広げることが目的としている。具体的な内容としては、事業機会・事業領域・標的市場の選択や競争・流通・製品の分析等を講義する。さらには、価格・コミュニケーション・流通チャネルの対応等も紹介しつつ、サービス・マーケティングやソーシャル・マーケティング等も取り扱うことで、基礎的であり重要な概念を理解できるようになることを目指す。なお、授業終わりにリアクションペーパーを書いてもらうことで、学修成果の把握の一助にする。 | ・マーケティングの基礎的な概念や概念の関連性を修得している。(知識・理解)◎ ・マーケティングの基礎的な概念や概念の関連性の知識を活用して、適切にケース分析を行うことができる。(技能)◎ ・マーケティングの知識や技能に基づき、企業の特徴や状況を思考した上で、マーケティング活動を考察し、顧客の課題解決について表現できる。(思考・判断・表現)◎ ・マーケティングに関心があり、顧客の課題解決に関する活動について意欲を有している(関心・意欲・態度)△ | |
| 流通論 I | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、「生産から消費まで」にかかわる流通機構について、多様な小売業態の検討を中心に、基礎的な知識や理論を理解しながら、実務場面等で活用する分析や検討ができる力の修得を目的とする。また、実践的な理解を深めるために、小売業や消費行動に関連する事例を検討し、具体的な分析や検討を通して、基礎知識や理論を踏まえた実践能力の向上を図る。小売業はサービス業に含まれるので、サービス・マーケティングの視点から検討する。さらに、近年においては多方面でインターネットの活用が進んでいる状況であるので、実店舗による小売りのみではなくインターネット・マーケティング(ネット通販)についても検討する。 | ・この授業で扱う経営やマーケティング分野の基礎的な知識を理解し、その上で流通に関し多角的に知識を連携させている。(知識・理解)◎ ・マーケティング分野の基礎的な技能を理解し、主体的活用の努力姿勢を獲得するとともに、異なる立場を理解し協調することができるようになる。(技能)◎ ・流通における諸課題を分析するために、基礎的な知識・技能を活かして論理的に検討し、その過程や結果を簡潔に表現することができる。(思考・判断・表現)◎ ・身に付けた知識、技能、思考力・判断力・表現力を、与えられた課題に活用できる。(関心・意欲・態度)△ | |
| 流通論 II | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、「生産から消費まで」にかかわる流通機構の現状と課題について、基礎的な知識や理論を理解しながら、実務場面等で活用する分析や検討ができる力の修得を目的とする。また、実践的な理解を深めるために、流通業や流通課題に関連する事例を検討し、具体的な分析や検討を通して、基礎知識や理論を踏まえた実践能力の向上を図る。商品が生産者から消費者までの届く仕組みはサプライチェーンと呼ばれるが、これらの複数企業による流通連携状況について検討する。生産地と消費地が異国である場合も少なくない状況であるので、グローバルな視点からのマーケティングや流通についても検討する。さらに、近年においては企業の社会的な責任が問われる状況も増えているので、フェアトレード等の流通関連で配慮すべき課題についても検討する。 | ・この授業で扱う経営やマーケティング分野の理論的な知識を修得し、その上で流通に関し多面的かつ将来的な展望を含めた知識を構造的に理解し深めている。(知識・理解)◎ ・マーケティング分野の基礎的な技能を活用し、自ら主体的に実践するとともに、異なる立場を理解して尊重しながら相互調整を図り協働することができる。(技能)△ ・流通における諸課題を解決するために、基礎的な知識・技能を活かして論理的かつ実践的に考察し、その過程や結果について説得力を持って表現することができる。(思考・判断・表現)◎ ・身に付けた知識、技能、思考力・判断力・表現力を、ビジネスの世界やその関連領域で発揮することに強い関心と意欲を有する。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 統計学基礎演習 I | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、統計解析の基礎となる考え方やその手法について修得することを目的とする。また演習を行い、データを分析することを通じて、統計学を経営学や経済学へ応用する力を養うことも目的とする。具体的な内容としては、記述統計や、推測統計の基礎、推定や検定、単回帰分析について講義を行う。さらに講義で学んだ内容に基づいて、学生自身がエクセル等を利用して実際にデータの分析を行うことを通じて、統計解析の基礎を身に付ける。 | ・この授業で扱う記述統計と推測統計(推定・検定)の知識を修得している。(知識・理解)◎ ・推測統計の理論に照らして、実データで推定・検定を活用することができる。(技能)◎ ・統計の知識で社会現象を考察し、分析結果を効果的に表現できる。(思考・判断・表現)◎ ・データに基づいて判断することについて意欲を有している。(関心・意欲・態度)△ | |
| 統計学基礎演習 II | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、統計学基礎演習 I で学んだ内容を踏まえて、様々な種類の検定方法や、複数のデータを同時に分析する「多変量解析」の考え方の基礎を修得することを目的とする。さらに、ソフトウェアを利用したデータ分析の演習を行うことで社会へ応用、実践する力を養うことを目的とする。具体的な内容としては、統計学基礎演習 I の復習を簡単に行ったあとに、重回帰分析、ロジスティック回帰、主成分分析、ベイズ統計の入門、クラスターリングなどについて講義を行う。さらに講義した分析手法について、学生自身がエクセルやRなどのソフトウェアを用いて実際にデータの分析を行う。 | ・統計学の基礎、多変量解析の基礎的な知識を修得している。(知識・理解)◎ ・多変量解析の知識に基づき、実データでソフトを使いながら活用することができる。(技能)◎ ・統計の知識で社会現象を考察し、分析結果を効果的に表現できる。(思考・判断・表現)◎ ・世の中にあるデータを分析して、新しい知見を得る意欲を有している。(関心・意欲・態度)△ | |
| ミクロ経済学基礎 II | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、ミクロ経済学基礎 I で学修したことを土台として、市場における配分が必ずしも最適とはならない諸ケースの基礎を学修する。独占、外部経済・不経済、情報の非対称性等の問題がある場合である。その上で、これらの問題に対する政策的対応のあり方についても分析する。また、市場における配分は、所得の配分という観点からは難しい問題を抱えていることも考察する。日本や世界の現実的な経済問題の理解に基礎理論がどのように役立つかについても学修する。 | ・この授業では、市場の失敗に関する様々な場合の知識を有している。(知識・理解)◎ ・独占、外部性(外部経済・不経済)、情報の非対称性等の問題について分析の技術を身に付ける。(技能)◎ ・市場の失敗に関する知識や分析技能に基づいて、現実の経済におけるこれらの問題に対する政策的対応について考察したり、対策を策定して表現したりすることができる。(思考・判断・表現)◎ ・日本や世界の実際の経済問題について理解と対応について主として市場の失敗の観点から検討する意欲を有する。(関心・意欲・態度)△ | |
| マクロ経済学基礎 I | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、マクロ経済学の基礎を学修することでマクロ経済学の観点による考え方や捉え方の基礎を身に付けることを目的とする。マクロ経済学が、集計量、あるいは集計量同士の関係に関する学問であることや、景気循環、インフレーション、デフレーションの概念について学んだあとに、GDPと物価指数統計の意味を正しく理解する。引き続き経済成長の概念、その決定要因を概観する。さらに、貯蓄と投資の概念、両者を結びつける金融システムの役割についても学ぶ。これらを準備として、短期のマクロ経済均衡におけるGDP決定理論を学修し、乗数の考え方を理解し、使えるようになることを目標とする。 | ・マクロ経済学の基礎概念であるGDP、インフレーション、景気変動、経済成長の概念について理解する。(知識・理解)◎ ・貯蓄、投資、利子率の概念を理解する。(知識・理解)◎ ・GDP決定の基本理論である所得支出アプローチを身に付け、様々な現実のマクロ経済問題に応用することができる。(技能)◎ (思考・判断・表現)◎ | |
| マクロ経済学基礎 II | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、マクロ経済学基礎 I で学修したことを土台として、まず総需要・総供給、すなわち、GDPと物価の同時決定の理論を学ぶ。続いて、財政政策の効果、財政赤字・黒字の概念、財政の維持可能性等についても学修する。次に、マクロ経済における中央銀行の役割、名目利子率・実質利子率、貨幣供給の概念を身に付けた後、金融政策の短期・長期における経済効果を学修する。また、金利のゼロ制約や非伝統的金融政策についても学ぶ。応用として、ハイパーインフレーション、デフレーション、金融危機等について、世界各国の例を学修する。開放経済への応用である国際マクロ経済学についても学び、経常収支、資本収支、為替レートの動きを説明できるようになる。 | ・GDPと物価の同時決定に関する総需要・総供給を理解し、現実の諸問題に適用することができる。(知識・理解)◎(技能)△ ・財政・金融政策がマクロ経済にどのような影響を及ぼすかを理解するとともに、現在の日本でこれらの政策がどのように実行されているか、どんな問題を抱えているかについて関心を持つ。(思考・判断・表現)◎、(関心・意欲・態度)◎ ・世界経済を悩ましてきたインフレ・デフレ、金融危機について関心を持ち、将来のキャリアとの関連についても想像してみる。(関心・意欲・態度)◎ ・開放経済のマクロ経済理論の基礎について学修し、現実の諸問題に適用することができる。(知識・理解)◎(技能)△ | |
| 財務会計 I | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、財務会計を考察対象とし、株式会社が作成・提供する財務諸表の基礎概念について学ぶことで、作成方法はもとよりその読解力を養う。1年次配当の「会計基礎 I・II」では主に会計手続を学修するが、本講義では会計手続の理論的背景を学び、3・4年次配当の「会計演習A」につなぐ。具体的には、主に「財務会計の基礎理論」「会計制度」「資産会計」を説明する。なお「会計制度」においては、金融商品取引法、会社法、国際財務報告基準(IFRS)にも触れ、財務会計情報の信頼性を保証する仕組み(監査)についても講義対象とする。 | ・財務会計の意義を理解し、その理論的枠組みに関する知識を修得している。(知識・理解)◎ ・財務会計の知識や複式簿記の技能に基づき、応用的な会計情報(特にB/S情報)を作成することができる。(技能)◎ ・企業の財務内容に関心があり、会計情報を利用しようとする意欲を有している。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 財務会計 II | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、「財務会計」を拡張し、主に「負債会計」「資本(純資産)会計」「損益会計」「連結会計」を扱う。また、財務会計の情報伝達手段である財務諸表について、作成のための根拠法令(会社法、金融商品取引法、法人税法)による相違やその保証行為である監査も説明する。財務会計 I と同様に、株式会社が作成・提供する財務諸表の基礎概念について学ぶことで、作成方法はもとよりその読解力を養うとともに、会計手続の理論的背景を学び、3・4年次配当の「会計演習A」につなぐ。 | ・財務会計の意義を理解し、その理論的枠組みに関する知識を十分に修得している。(知識・理解)◎ ・財務会計の知識や複式簿記の技能に基づき、応用的な会計情報(特にP/L情報や連結財務情報)の作成や会計情報の分析が行える。(技能)◎ ・企業の財務内容に関心があり、会計情報を利用しようとする強い意欲を有している。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 原価計算 I | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、「会計基礎・II」の内容をさらに進め、製造業が製品を製造するためにかかった原価(製造原価)を計算する手続を学ぶ。原価計算は実務に直結する学問であるため、多くの計算演習を通して理解を深めると同時に、その根底にある考え方を理解し学問としての原価計算も学ぶ。原価計算 I では、原価計算の基礎(原価計算の意義と目的、原価の分類、等)、原価計算の原則と手続、費用別計算(材料費計算、労務費計算、製造経費計算)および部門別原価計算を中心として扱う。 | ・この授業で扱う原価計算の概念と基礎知識(費用別計算および部門別原価計算)を修得している。(知識・理解)◎ ・原価計算の理論に照らして、その手続に沿って簡単な計算演習ができ、製造原価報告書を準備することができる。(技能)◎ ・原価計算の知識や技能に基づき工業簿記の背景を考察し、製造業の財務状況について表現できる。(思考・判断・表現)◎ ・原価計算に関心があり、製造業上場企業の決算発表の理解について意欲を有している。(関心・意欲・態度)△ | |

| 科目名 | 科目区分 | 科目概要 | 到達目標(成績評価A) | 単位修得目標(成績評価C) |
|---------------|------------------|--|--|---------------|
| 原価計算Ⅱ | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、原価計算Ⅰに引き続き、製造業が製品を製造するためににかかった原価(製造原価)を計算する手続きを学ぶ。具体的に扱うテーマとしては、製造間接費の配賦(製造間接費の分類、集計、総括配賦、実際配賦と予定配賦、製造間接費予算と製造間接費配賦差異の原因分析)、個別原価計算(部門別計算の意義と目的、原価部門の設定、部門個別費と部門共通費、部門費の集計、補助部門費の製造部門への配賦、製造部門費の製品への配賦と製品原価の計算)、総合原価計算および標準原価計算を中心とする。 | この授業で扱う原価計算の概念と基礎知識(製造間接費の配賦、個別原価計算、総合原価計算および標準原価計算)を修得している。(知識・理解)◎ ・原価計算の理論の理解を基礎として、その手続きに沿って計算演習ができ、製造原価報告書を準備することができ、また既存の製造原価報告書の分析・理解ができる。(技能)◎ ・原価計算の知識や技能に基づき工業簿記の背景を考察し、製造業の財務状況について表現でき、その企業の特徴の把握ができる。(思考・判断・表現)○ ・原価計算に関心があり、製造業上場企業の決算発表を意欲的に分析・検討する。(関心・意欲・態度)△ | |
| リーダーシップ開発基礎演習 | ビジネス学部 専門基幹科目 | この科目は、リーダーシップ開発入門演習Ⅰ同様に、企業、公的部門もしくはNPO法人等の事業体に関する課題が盛り込まれたケースを教員が提示し、学生はグループワークを重ね、課題解決策を提案する形式を取る。なお、これまでの学びで獲得した専門分野に係る知識・技能と、リーダーシップ開発入門演習Ⅱで思考した自分らしいリーダーシップを発揮し、リーダーシップ開発入門演習Ⅰよりも質の高いグループワークの取組みや課題解決策のプレゼンテーションを行う。教員は学生と意思疎通を図りつつ、知的な基礎に裏付けられた能力が発揮できるよう指導していく。 | ・グループワークを通じた課題解決において、リーダーシップの実践のために自分を客観的に理解する。(知識・理解)○ ・グループワークと課題解決ならびにクラス内外において、自ら主体的に行動するための多様なコミュニケーションスキルを伝えるようになる。(技能)◎ ・グループワークと課題解決ならびにクラス内外において、どのように自分らしくリーダーシップを発揮するかを考え行動計画を立てる。また、それをグループメンバーならびに他者に共有することができる。(思考・判断・表現)◎ ・グループワークと課題解決ならびにクラス内外において、グループとしての成果を高めるために自分ができることを他者に示し、他者の協力を仰ぐと共に、他者支援を適切に行うことができるようになる。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 経営戦略論Ⅱ | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、「経営戦略論」で学んだ経営戦略論の基礎的知識をもとに、さらに発展的な内容を深める。企業を取り巻く外部環境が大きく変化の中で、企業が存続するためには、環境変化に適応しつつ、外部環境と企業内部の資源や能力をうまく適合させなければならない。このための長期的な道筋を示したものが経営戦略である。「経営戦略論Ⅱ」では、企業の競争力の獲得・向上の観点から「成長戦略」「競争戦略」「戦略と組織変革」「経営戦略とCSR」「グローバル戦略」等について取り上げ、具体的事例を通して理論の有効性を確認しつつ、理論を応用するための考え方を深めていく。また、討議形式を随時取り入れていくことで、学生の積極性を涵養するとともに理解の促進を図る。 | ・経営戦略についての理論と戦略を策定するためのツールを理解している。(知識・理解)○ ・経営戦略を策定するための基本的なツールを用いることができる。(技能)○ ・具体的な事例において戦略実行の結果を調べ、その成功要因や失敗要因を分析し、説明できる。(思考・判断・表現)◎ ・実際のビジネスのなかで経営戦略のフレームワークがどのように使われているかに関心を持ち、自ら「戦略」的に物事を考え、説明することができる。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 経営組織論Ⅱ | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、「経営組織論」で学修した内容を発展させていく。「経営組織論」では「組織の定義」「マクロ組織論」「ミクロ組織論」のそれぞれにおいて基礎的項目を扱うが、この科目は範囲を関連領域にまで拡張して「経営組織論」では取り上げられなかった他の学説について取り上げていき、それら学説を比較していく。その比較を通じて、学説間で問題となっているものが何なのか、その問題の所在だけで十分なのか、すなわち、見落とされた問題はないのかといった点について、組織運営に関連すると考えられるニュースや世間の話題を念頭に検討していく。進め方は、「経営組織論」の内容から事前にテーマを選択し、それに関する講義を行い、その後全体的な討議を行う。講義では学説の比較まで扱い、討議で検討を加えていく。学生は、基本的な視点に対する理解、それに対する批判的思考、積極的な発言姿勢などを身につける。 | ・授業内で紹介された用語、概念、理論等を理解している。(知識・理解)◎ ・組織について、過去・現在の実例に則して多面的に論じることができる。(思考・判断・表現)◎ ・組織と組織メンバーとの関係について、過去・現在の実例に則して多面的に論じることができる。(思考・判断・表現)◎ ・日本の働く現場における組織と個人との今後のあり方について、自分なりの理想型を定めることができる。(関心・意欲・態度)○ | |
| 中小企業論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、地域社会との関わりが深く企業の大半を占める中小企業が、どのように経営環境の変化に対応してきたのか、大企業とは異なる中小企業経営の特質や課題は何か、業種別、地域別などのような違いがあるのか、といった点に関して講義をする。そのため、企業の誕生期ともいえる「起業活動」にはじまり、「地域(地場)産業」と中小企業経営」「中小企業のネットワーク組織」「中小企業のイノベーション」「中小企業の国際経営」といった幅広いテーマを扱う。さらに、それを支える中小企業政策にも言及することで、社会における中小企業の存立意義と役割を理解するとともに中小企業経営を診る力を養う。 | ・中小企業の実態と課題ならびに中小企業経営の知識を修得している。(知識・理解)○ ・経営学の理論を活用し、個別企業の強みや弱みを明らかにすることができる(技能)◎ ・経営学の知識や理論に基づき、中小企業経営者や管理者の立場にたつて経営判断を提示し、その理由を論理的に表現することができる。(思考・判断・表現)△ ・多様な中小企業(地場産業、社会的企業、起業活動、ベンチャー企業など)に興味・関心を有し、大企業とは異なる中小企業の特質を学ぼうとする意欲を有している。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 現代経営事情 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、実務の最前線を体験することを通じて、経営の基礎概念や新しい潮流などについて、実践的な意味で理解を深めることを目的とする。主として実務経験のある研究者や企業・組織等で責任ある業務に従事した経験者や実務家をゲスト・スピーカーとして招聘したり、実際の企業に協力を得て、現場における経営のあり方について触れたり、学修した知識の適用を図る。学生は、実際に見聞したことを経営学的視点から分析・整理・批判的検討を加えることで、これまで学修した内容と現場での現実とを的確に関連づけるための能力を身に付ける。 | ・見聞した実務の現状に対してこれまで学修した経営学の理論・概念等を適用して分析できる。(思考・判断・表現)◎ ・見聞した実務の現状を通して、経営学の既存の理論・概念等で説明できない事実を指摘できる。(思考・判断・表現)◎ ・上記の分析内容や事実発見に関する知見を他者と共有することで、理解や視点をさらに深めることができる。(技能)○(思考・判断・表現)◎ ・見聞した実務の現状を通して、卒業後のキャリアイメージをより深く検討できる。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 国際経営論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、「サステイナビリティ(持続可能性)」をキーワードに経営のあり方を考える。多国籍企業と日本のドメスティックな長寿企業とを対照しながら、サステイナブル・マネジメントを指向する上での両者の相違点や共通点を検討していく。初期の国際経営においては、地球規模でのマーケット戦略が論じられ、この科目でもその基礎的な戦略課題について説明していく。また、近年の国際経営論においては、社会的な課題に取り組むソーシャル・マネジメントの考え方が取り入れられており、このような新たな視点について説明していく。ソーシャル・マネジメントにおいては、多国籍企業への社会からの信頼や共感が生みだされてくる。グローバルな社会と共存していける現代の国際経営について学ぶことで、サステイナブル・マネジメントの基礎について検討していく。世界に羽ばたくグローバル人材となる学生に向けて、国際経営の基礎と進化を伝えていく。 | ・この授業で取り上げる、国際経営の基礎理論およびソーシャル・マネジメントという国際経営の新たな論点を知識として理解することができる。(知識・理解)○ ・国際経営を担う学生の皆さんが、本授業を履修することで、主体的に国際的な経営課題を理解し、経済的弱者を支援することができる。(技能)△ ・日本の長寿企業の経営思想を考察し、国際的なサステイナブル・マネジメントの方策を具現化する思考を表現することができる。(思考・判断・表現)◎ ・国際的な課題に取り組む、グローバル企業の活動に関心を持ち、学生自らが国際経営の主役として活動できる意欲を養うことができる。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 人的資源管理論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、「経営組織と多様性」をキーワードに組織と個人との関係を考える。「働き方改革」の名の下、労働者の働き方に対する認識が社会的に変化しつつある現在において、人的資源管理の改善が社会的問題となっている。しかしながら、変革する組織においては組織文化が組織変革の促進や妨害の見えない力となるため、人的資源管理には組織論的知見が不可欠である。そこで、要所において経営組織論の視点を応用しながら、今後の日本における人的資源管理のあり方について検討する。具体的には、これまでの日本社会における人的資源管理の制度や特徴、それが与えた影響の利点・欠点を紹介し、組織内の個人の意向といった心理的側面に注目しながら、環境変化に合わせた組織文化の変容をいかに起こすべきか、多様性のある組織には何が必要かの2点を柱として検討する。討議形式を随時取り入れていくことで、学生の積極性を涵養するとともに理解の促進を図る。 | ・日本で行われている人的資源管理について現状を理解している。(知識・理解)◎ ・今後の日本における人的資源管理の望むべきあり方について自分なりに論じることができる。(思考・判断・表現)◎ | |
| コーポレート・ガバナンス | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、近時非常に注目されている「コーポレート・ガバナンス」についての理解を深める。コーポレート・ガバナンス(企業統治)とは、企業価値を向上させるための経営者に対する監督の仕組みである。そこで、まず総論として、取締役等の会社経営者の受託者責任、法令遵守義務(コンプライアンス)、経営判断原則等のコーポレート・ガバナンスの根幹に関わる基礎概念を理解する。つぎに各論として、わが国の経済において特に重要な役割を担っている銀行や証券会社等の金融機関を対象として取り上げて、コーポレート・ガバナンスの具体的な展開を学ぶ。また、コーポレート・ガバナンスは、米国発祥で後にわが国にもたらされたという経緯があるため、米国法におけるコーポレート・ガバナンスにも適宜言及して理解を深める。 | この授業で扱う受託者責任(フィデューシャリ・デューティ)の概念や法令遵守(コンプライアンス)に関する知識を修得している。(知識・理解)○ ・会社の具体的な意思決定の合理性を判断する際に、経営判断原則の理論を活用することができる。(技能)◎ ・金融規制に関する知識に基づいて金融機関とその取締役等の法的責任の有無を分析したり考察したりできる。(思考・判断・表現)○ ・ビジネスのルールに関心があり、公平な制度・解釈を求めることについて意欲を有している。(関心・意欲・態度)○ | |
| コンプライアンス経営論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、ビジネスを進める上で経営者や労働者が身に付けておきたいコンプライアンスの側面について、グループワークによるケーススタディー形式で学修する。具体的には、不正会計、情報管理、消費者対応、雇用関係及びパワー・ハラスメントに関するコンプライアンス違反事例研究を取り上げ、ディスカッション、振り返り、まとめを繰り返すことで、原因メカニズムの分析や企業行動がコンプライアンスに反するか否かの判断能力を身に付けるとともに、内部通報システムの役割等についても理解する。テーマに応じ、公認会計士、弁護士、その他ゲストスピーカーを招聘し、実務経験に基づいた説明を加えることで、学修効果を高める。 | ・単なる法令遵守ではなく、社会の倫理や社会通念と抵触しない企業行動がコンプライアンス経営の本質であることを理解できる。(知識・理解)◎ ・企業等の組織におけるコンプライアンス違反等の原因メカニズムを分析できる。(技能)○ ・ある企業行動がコンプライアンスに反するか否かを判断できる。(思考・判断・表現)△ ・コンプライアンス経営に関心を持ち、実践する意欲を有している。(関心・意欲・態度)△ | |

| 科目名 | 科目区分 | 科目概要 | 到達目標(成績評価A) | 単位修得目標(成績評価C) |
|-------------------|------------------|--|---|---------------|
| ビジネスと法A | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、企業の対外的営利活動を支える基本的ルールである「商法」(商法総則・商行為)と、支払決済のための重要なルールである「手形法・小切手法」を講義する。商法においては、大量・反復・継続を特色とする企業取引に対して、法はどのような趣旨・目的で、いかなる制度・規定を置いているのかを重点的に学ぶ。手形法・小切手法においては、支払決済が公正・円滑に行われるための緻密な利益考量がいかにおこなわれているのか(有価証券法理)を理解し、さらに、現代における支払決済の電子化に対応して制定された「電子記録債権法」についても学ぶ。 | この授業で扱う商法の概念や有価証券の知識を修得している。(知識・理解)◎ ・有価証券法理に照らして、手形を巡る法的諸問題を解決することができる。(技能)◎ ・商法総則・商行為の知識に基づき、広く日常の経済活動を考察できる。(思考・判断・表現)○ ・ビジネスのルールに関心があり、公平な制度・解釈を求めることについて意欲を有している。(関心・意欲・態度)○ | |
| ビジネスと法B | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、企業組織とその運営に関して規定している「会社法」と、企業が資金調達を行う資本市場に関する規定である「金融商品取引法」とを中心的に学ぶ。会社法においては、とくに株式の意義と機関の機能・役割とを深く理解する。金融商品取引法においては、投資者(株主)の保護を目的として置かれている、開示規制・業規制・不正取引規制等の制度趣旨を理解する。会社法・金融商品取引法は共に、米国法の影響を強く受けて制定・改正されているので、必要に応じて米国法の知見も併せて紹介することで、会社法・金融商品取引法の多角的な理解を目指す。 | この授業で扱う会社に関する法的概念や証券取引規制の知識を修得している。(知識・理解)◎ ・会社法・金融商品取引法を支える基礎理論を活用して、株主・投資者その他の当事者間における適切な利害調整を図ることができる。(技能)◎ ・会社法や金融商品取引法の知識に基づいて、社会における企業の経済活動の意味や証券市場の機能を考察し、分析することができる。(思考・判断・表現)○ ・ビジネスのルールに関心があり、公平な制度・解釈を求めることについて意欲を有している。(関心・意欲・態度)○ | |
| 消費者行動論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、消費者行動論に関連する基礎的な概念と考え方を身につけ、自分で使えるようになることを目的とする。マーケティングでは常に消費者が焦点になる。消費者について適切な理解と深い洞察を得るには、有用な理論と概念が必要となることは論を待たない。この授業では、消費者理解や消費者との関係構築・維持、価値創造などにかかわる現実的な問題を考える際に、いかに消費者行動論の基礎概念・考え方が役立つのかについて検討する。大まかな内容としては、①消費者行動論という分野の概要、②個人としての消費者、③個人消費者へのマーケティング、④社会的存在としての消費者の4項目を扱う。例えば個々の消費者は社会(他の消費者やオピニオンリーダー、企業などの他者)や制度、価値の規範といったある種のルールとどのように関わっているのか、普及や流行といった現象はどのように起きるのか、身近な事例を通じて理解を深めていく。 | この授業で紹介される消費者行動論の基礎的な概念や理論を理解している。(知識・理解)◎ ・消費者行動論の基礎的な概念や理論を使って問題を自分の頭で整理し、自分のことばで他者に明確にその問題の本質を書いたり、また話して伝えることができる。(技能)○、(思考・判断・表現)○、(関心・意欲・態度)◎ | |
| 現代マーケティング事情 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、実務の最前線を体験することを通じて、マーケティングの基礎概念や新しい潮流などについて、実践的な意味で理解を深めることを目的とする。主として実務経験のある研究者や企業・組織等で責任ある業務に従事した経験を有する実務家をゲスト・スピーカーとして招聘し、現実に展開されたマーケティングがどのような成果や課題に至ったのか、またマーケティングの諸概念がどのように活用されているのかなどについて、ゲスト・スピーカーを含め、学生同士で議論することで、マーケティングの実践的な知識を深める。 | ・マーケティングの基礎を基盤としながら現代マーケティング事情の考え方や知識を修得している。(知識・理解)△ ・現代マーケティング事情の考え方や知識に照らして、主体的に活用できる。(技能)△ ・現代マーケティング事情に対して、その考え方や知識を総動員して考察し、自らの考えや意見を提示し他者(ゲストや他学生)と議論できる。(思考・判断・表現)◎ ・実際のマーケティングに興味・関心を持ち、主体的にマーケティングを学ぼうとする意欲を有している(関心・意欲・態度)◎ | |
| マーケティング・リサーチ | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、マーケティングを実行する上で生じる意思決定課題に対して、適切に解決策を見出すことができるための知識やスキルの修得を目的とする。実際の様々なマーケティング活動に関わってきた経験を踏まえ、課題の設定、調査設計、集計と分析、調査結果の報告までの一連のプロセスをその理論面だけではなく、実務を踏まえた実践的な立場から、マーケティングの事例に基づくワークショップを随所に盛り込むことで、マーケティング・リサーチの理論と実践能力の育成を図る。 | ・マーケティング・リサーチの一連のプロセスの考え方や理論を修得している。(知識・理解)○ ・マーケティング・リサーチの一連のプロセスの考え方や理論に照らして、一連のプロセスを主体的に実施できる。(技能)◎ ・マーケティング課題に対して、マーケティング・リサーチの知識やスキルを総動員して考察し、自らの解決策を提示し他者と議論できる。(思考・判断・表現)◎ ・マーケティングに興味・関心を持ち、主体的にマーケティング・リサーチを学ぼうとする意欲を有している(関心・意欲・態度)△ | |
| マーケティング・コミュニケーション | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、マーケティング・コミュニケーションにかかわる基礎的な知識、理論、手法を理解しながら、実務で応用できる力の修得を目的とする。昨今、LINEやYouTubeなどのソーシャルメディアの急速な普及やマーケティング過程全体のデジタル化などにより、マーケティング・コミュニケーションを取り巻く環境は大きく変化している。このような新しい変化を踏まえ、実務を踏まえた実践的な立場から、基礎的な知識、理論、手法の解説だけでなく、最新のマーケティング・コミュニケーションの動画や事例を議論することで、マーケティング・コミュニケーションの理論と実践能力の育成を図る。 | ・マーケティング・コミュニケーションの概念やその計画プロセスの考え方や理論を修得している。(知識・理解)○ ・マーケティング・コミュニケーションの概念やその計画プロセスの考え方や理論に照らして、一連のプロセスを主体的に実施できる。(技能)◎ ・マーケティング・コミュニケーション課題に対して、その知識やスキルを総動員して考察し、自らの解決策を提示し他者と議論できる。(思考・判断・表現)◎ ・マーケティングに興味・関心を持ち、主体的にマーケティング・コミュニケーションを学ぼうとする意欲を有している(関心・意欲・態度)△ | |
| ビジネスとプログラミング | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、アプリケーションプログラムや人工知能など、ビジネスや実生活の多くの場面で重要となってきたIT技術の基礎である、プログラミングについて学修することを目的とする。また演習や応用例の紹介を通じて、実践力や応用力についても身につけることも目的とする。具体的には、プログラミング言語の仕組み、プログラミングの構文などについて講義を行う。そして演習などを通じて、Pythonなどのプログラミングを実際に体験し、実践力を身につける。加えて、オペレーション・リサーチや人工知能(主に機械学習)などの発展的な話題についても簡単に紹介しながら、ビジネスへ応用力の育成を図る。 | この授業で扱うプログラミングの基礎とデータ分析の知識を修得している。(知識・理解)◎ ・簡単なビジネスの分析課題について、プログラミングを実装することができる。(技能)◎ ・自ら興味のあるビジネスに関する問題に応用し、実装できる。(思考・判断・表現)○ ・プログラミングをビジネスへ応用するという意欲がある。(関心・意欲・態度)○ | |
| ビッグデータ分析 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、IT関連技術が整備されるなかで入手可能になった大量のデータ、ビッグデータの取集や分析方法について学び、さらに演習を通じてスキルや実践力を身につけることを目的とする。今日、インターネット上のテキストデータ、画像データ、センサーデータなど多くのデータが入手可能になっている。このようなデータから新しく知識を獲得することは経営や経済で重要となっている。そこで、その基礎となる様々なデータの扱い方、統計・人工知能(機械学習)などの新しいデータの分析手法について学び、さらにプログラミングの演習などを通じて実践力の育成を図る。 | この授業で扱うプログラミングや統計・機械学習の知識を修得している。(知識・理解)◎ ・インターネットなどの多様なデータなどを収集し、分析することができる。(技能)◎ ・多様なデータをどう分析をすればいいかという判断ができる。(思考・判断・表現)○ ・情報社会のなかでデータから新しい知識を獲得する意欲がある。(関心・意欲・態度)○ | |
| 金融論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、経済社会における様々な交換を支える仕組みとしての金融の意義をまず理解する。その上で、典型的な金融仲介機関である銀行の存在意義、その脆弱性、脆弱性を緩和するための政策等について理解をする。また、銀行以外の様々な市場取引、それを支える金融仲介機関の活動についても学修する。後半では、マクロの金融政策の効果について、中央銀行の政策目標、その達成の方法、最近における非伝統的金融政策などを学修する。 | ・現実の経済取引の背後で金融がどのように関わっているかについての理解と金融制度についての知識を得ることができる。(知識・理解)○ ・金融取引に必要な技能やテクノロジーを活用して、将来の行動や生活等に積極的に導入することができる。(技能)○ ・金融市場の意義と危険性についての理解を通じて、リスクのある取引や詐欺的な取引を選別する判断ができる。(思考・判断・表現)◎ ・金融の技術が技術革新や新しいビジネスに直結することに関心を持ち、その知識を現実にも役立てることに意欲を感じる。(関心・意欲・態度)△ | |
| 国際貿易論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、国際貿易理論の基礎的な部分を学修する。リカード、ヘクシャー・オリーンの比較優位の理論を理解することを最大の目標とする。その上で、通商政策の効果についても学修しつつ、現実には貿易摩擦がどうして発生するのかについても学修する。経済のグローバル化が急速に進展する中で、国際貿易理論と現実の貿易摩擦発生要因を分析し、経済政策がどのようにこれに対応しようとしているか、国際的な独占や寡占と市場における競争の実態も踏まえて理解を深める。 | ・国際貿易に関する理論の基本的な知識を有している。(知識・理解)○ ・必要な理論の基礎を理解した後、実証分析の手法を応用して、国際経済学の分析技術を身につける。(技能)◎ ・国際貿易の理論と実証分析を活用して、現実の国際的な経済問題について考察を深め、自らの考えをまとめて意見を表明できるようになる。(思考・判断・表現)○ ・グローバル化が進む今日の社会経済問題の本質を主体的に理解しようとする意欲を有している(関心・意欲・態度)○ | |
| 公共経済学A | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、政府の経済活動に関する経済学である公共経済学のうち、ミクロ経済学的な部分について学修する。厚生経済学の基本定理を復習の後、市場の失敗とそれに対する政府介入の主要な例を学ぶ。外部不経済、自然独占、情報の非対称性が存在すると、どのような理由から市場メカニズムが最適な資源配分を実現できないかについて平易に解説し、その解決策を探る。また、最適課税や公共財の最適供給についても学修する。こうした問題を考えるうえで、政府の徴税権や国家の所有権制度がいかに重要であるかについても説明する。市場の失敗を解決するうえで必要とされる政府も万能ではなく、その原因を突き止めるためには、政党と官僚の行動等に関する分析が必要である。本科目では、政府が失敗する原因についての考察も行う。 | ・政府や自治体といった公共セクターがどのような活動をしているかについての知識を修得したうえで、私たちの生活とどのように関連しているかについて理解する。(知識・理解)◎ ・ミクロ経済学の基礎理論を用いて、政府の経済活動を分析することができる。(技能)○ ・厚生経済学や情報の経済学を用いて、政府が効率的な資源配分や公平な所得配分を実現するうえで、必要な存在であることを批判的に議論できる。(思考・判断・表現)◎ ・課税制度や所有権制度に関心を持ち、それらについて望ましいあり方を考えることができる。(関心・意欲・態度)○ | |
| 公共経済学B | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、政府の経済活動に関する経済学である公共経済学のうちマクロ経済学的な部分を学修する。公債の負担の分析、財政の維持可能性の分析、高齢化と社会保障改革の問題等について我が国の例を用いつつ分析する。特に、経済活動における公共部門の役割、我が国の少子高齢化の現状と少子化対策、公的年金の役割とその財源調達の在り方について理解し、さらに、政府支出のマクロ経済効果、公共投資の費用便益分析、人口構成の変化がマクロ経済に与える影響、地域経済活性化と地方財政・補助金政策等のテーマにも触れる。 | ・公的年金を中心とした社会保障制度の現状と問題点についての知識を修得し、少子高齢化の進展に伴う制度改革について自身の考えを述べることができる(知識・理解)◎(技能)△(思考・判断・表現)◎ ・公債の負担や財政の持続可能性についての知識を修得し、問題解決に対する自身の考えを述べることができる(知識・理解)◎(技能)△(思考・判断・表現)◎ ・財政政策のマクロ経済効果に関する知識を修得し、財政政策に対する自身の考えを述べることができる(知識・理解)◎(技能)△ | |
| 国際金融論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、開放経済におけるマクロ集計量、国際収支、為替レートの概念に続いて、マクロ経済モデルの開放経済版を学修する。その上で、金融財政政策が為替レートその他のマクロ変数に与える影響について分析する。具体的には、為替レートの決定理論、金融政策の独立性とインフレ目標政策、金融緩和と政策の有効性などである。また、国際通貨制度の理論と歴史についても学修する。この中で、ブラザ合意、発展途上国の経済・通貨危機、リーマン・ショック、ユーロ危機、為替介入の手法と効果などの現実の国際金融諸問題についても理解する。 | ・国際収支や為替レートの概念や決定理論についての知識を修得している(知識・理解)○ ・開放経済体系下における経済政策の有効性に関する知識を修得している(知識・理解)○ ・国際金融市場や通貨制度の理論や歴史についての知識を修得している(知識・理解)○ ・現代の国際金融の諸問題に関心を持ち、問題解決に関する自身の考えを述べることができる(思考・判断・表現)◎(関心・意欲・態度)△ | |

| 科目名 | 科目区分 | 科目概要 | 到達目標(成績評価A) | 単位修得目標(成績評価C) |
|----------------|------------------|--|---|---------------|
| 現代金融・会計事情 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、ビジネスの現場で企業が直面する金融・会計関連の様々な課題の分析を通じて、現代の金融・会計が企業経営に与える影響や社会的に果たしている役割について理解を深める。具体的には、合併・買収(M&A)などのケースをとりあげながら、会計基準の違いが企業の業績や意思決定に与える影響を学ぶほか、低金利環境下における金融機関の財務分析などを通じて、ファイナンスと会計の融合的な理解を進めていく。また、会計士等の実務家による講義や会計基準作成の現場見学などを通じて、会計基準の作成・変更過程における関係者間(企業、投資家等)の利害調整の実情等に触れる機会を設ける。このほか、日本企業による採用が増加している国際財務報告基準(IFRS)の最新の動向、銀行規制やコーポレート・ガバナンスなどの他領域との関係を学ぶことで、金融・会計の多面的な理解を深める。 | ・現代の金融・会計が企業経営に与える影響や社会的に果たしている基本的な役割を理解している。(知識・理解)○ ・ファイナンスと会計の知識を活用して、低金利の環境が、銀行の財務状況に与える影響を把握できる(技能)△ ・企業が直面する様々な金融面の課題や企業行動について、その背景を理論的に考察し、表現することができる。(思考・判断・表現)○ ・現代のビジネスを取り巻く金融・経済環境や、それらを踏まえた企業行動の理解に意欲を有している。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 会計演習A | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、「会計基礎Ⅰ・Ⅱ」および「財務会計Ⅰ・Ⅱ」の学修を通じて得た知識や技能を基盤とした上で、連結、外貨換算、税効果、金融商品など、現代のビジネスにおける重要論点を中心とした演習問題への取り組みを通じて、適切な会計処理および財務諸表の作成・分析実務を修得する。「会計演習A」では、正しい会計処理(仕訳)を理解するだけでなく、対象となる事例(例えば、金融商品の証券化)の経済的、ファイナンス的な意味を確認するほか、異なるアプローチ(米商準則と国際財務報告基準<IFRS>)との比較を通じて、会計基準の背後にある考え方も含めて、より有機的・発展的に会計を学ぶ。このほか、財務諸表利用者の立場から、収益性分析をはじめとする財務分析についても演習を行う。なお、「会計演習A・B」での学修を通じて、日商簿記2級(商業簿記)程度の内容の修得は可能となる。 | ・現代企業にとって特に重要な会計上の論点について、会計基準の考えから導き出される適切な会計処理を理解している(知識・理解)◎ ・財務会計の基本的な知識を活用して、企業の特徴を把握するための財務分析を行うことができる(技能)◎ ・会計とファイナンスの知識を組み合わせて、対象となる取引の経済的な意味を考察できる(思考・判断・表現)○ ・企業実務における具体的な選択や行動が、会計情報としてどのように表現されるかについて関心をもっている(関心・意欲・態度)○ | |
| 会計演習B | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、「原価計算Ⅰ・Ⅱ」および「管理会計Ⅰ・Ⅱ」の学修を通じて得た知識や技能を基盤とし、経営管理者・財務担当者に求められる財務諸表の数字から経営内容を把握できる能力を含む高度な工業簿記(原価計算を含む)を修得する。原価計算の基礎的知識は既に修得した学修者の更なるレベル・アップを目指し、演習問題・実力テストを数多く積み重ねることにより実務能力養成を図る。なお、「会計演習A・B」での学修を通じて、日商簿記2級(商業簿記)程度の内容の修得は可能となる。 | ・この授業で扱う原価計算・管理会計の概念と基礎知識を修得している。(知識・理解)◎ ・原価計算・管理会計の理論に照らして、その手続きに沿って簡単な計算演習ができ、製造原価報告書・経営管理資料を準備することができる。(技能)◎ ・原価計算・管理会計の知識や技能に基づき原価計算・経営管理の背景を考察し、財務状況について表現できる。(思考・判断・表現)○ ・原価計算・管理会計に関心があり、経営管理者に役立つ情報を提供する原価計算・管理会計の理解について意欲を有している。(関心・意欲・態度)○ | |
| 管理会計Ⅰ | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、経営者の意思決定の重要な参考となる様々な企業分析指標について扱う。管理会計は、企業の経済活動を経営管理目的のために計画し、測定し統制する会計の総称であり、企業内部の経営管理者に役立つ情報を提供する会計である。「管理会計Ⅰ」では、利益管理に役立つCVP分析(Cost-Volume-Profit Analysis)、原価を変動費と固定費に分解する原価分解の方法、直接原価計算、目標利益を獲得するために企業活動の全体を管理する予算管理、事業部制会計、主として企業の収益性、支払能力を分析する経営分析などを扱う。 | ・この授業で扱う管理会計の概念と基礎知識(CVP分析、原価分解、直接原価計算、予算管理、事業部制会計など)を修得している。(知識・理解)◎ ・管理会計の理論に照らして、その手続きに沿って簡単な計算演習ができ、経営管理資料を準備することができる。(技能)◎ ・管理会計の知識や技能に基づき経営管理の背景を考察し、財務状況について表現できる。(思考・判断・表現)○ ・管理会計に関心があり、経営管理者に役立つ情報を提供する管理会計の理解について意欲を有している。(関心・意欲・態度)△ | |
| 管理会計Ⅱ | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、「管理会計Ⅰ」に引き続き経営者の意思決定の重要な参考となる様々な企業分析指標について扱う。具体的には、日常的な業務を行ううえで生じた問題を判断する業務的意思決定、設備投資を行うか否かを判断する設備投資意思決定、そして、企業環境の変化に伴い発展を遂げている戦略的原価計算として、活動基準原価計算(ABC)、原価企画、経営戦略とバランス・スコアカード、品質原価計算、ライフサイクルコストリングなどを扱う。 | ・この授業で扱う管理会計の概念と基礎知識(業務的意思決定、設備投資意思決定、活動基準原価計算など)を修得している。(知識・理解)◎ ・管理会計の理論に照らして、その手続きに沿って簡単な計算演習ができ、経営管理資料を準備することができ、また既存の経営管理資料の分析・理解ができる。(技能)◎ ・管理会計の知識や技能に基づき経営管理の背景を考察し、財務状況について表現でき、その企業の特徴の把握ができる。(思考・判断・表現)○ ・管理会計に関心があり、経営管理者に役立つ情報を提供する管理会計を意欲的に分析・検討する。(関心・意欲・態度)△ | |
| ファイナンス | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、預金、株式、債券といった様々な金融資産の特徴や、様々な金融仲介機能を果たす金融システムの全体像を学んだうえで、金利と割引現在価値、リスクとリターン、リスクプレミアムといった基本的な概念を身につける。続いて、資産選択の理論、資本資産評価モデル、利率の期間構造、効率的市場仮説等について学修するほか、銀行規制や日本銀行の非伝統的金融緩和と政策など、金融システム全体に影響を与える論点について最新の動向を学修する。このほか、先物・オプション等の派生商品(デリバティブ)の特徴や基本的な価格決定についても学ぶ。その上で、これらの概念、理論や様々な金融商品が、企業経営における資金調達や投資の意思決定等の場面で、どのように役に立つのかを理解する。 | ・ファイナンスの基本的な理論および概念を理解している(知識・理解)○ ・利率とキャッシュフローのパターンに応じて、割引現在価値を計算できる(技能)○ ・企業の資金調達や投資の意思決定プロセスにおいて、ファイナンス理論が具体的にどのように応用されているかを考察し、他者に説明ができる(思考・判断・表現)○ ・身の周りの金融商品や金融機関が提供するサービス等について、どのようなリスクがあり、どのようなリターンやメリットが得られるのか関心をもっている(関心・意欲・態度)◎ | |
| 起業と会計 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、まずアントレプレナーシップ(起業家精神)について学ぶ。続いて、起業の方法や過程など起業に関する基礎的知識について学修するとともに、具体的な起業事例(ケース)について討議形式で授業を展開する。事例(ケース)検討の際には、会計の知識も活用する。なお、授業の最終段階では、個人あるいはグループで新たな事業を立案し、ビジネスアイデアにまとめ、ビジネスプランとして提案・発表までを実践する。 | ・起業に関する基礎的知識を修得している。(知識・理解)◎ ・ビジネスプランを作成できる。(技能)△ ・起業の成長ステージに応じた課題への対処について適切に判断できる。(思考・判断・表現)△ ・起業に関心を持ち、実践する意欲を有している(関心・意欲・態度)○ | |
| 監査論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、三様監査(財務諸表監査、監査役等監査、内部監査)を概説する。財務諸表監査は、経営者に作成責任がある財務諸表に対して、独立の第三者である監査人(公認会計士、監査法人)がその適正性について意見表明する行為であり、金融商品取引法(及び会社法)によって法定されている。また、監査役等監査は、経営者の業務の執行について監査役等が監査する行為であり、会社法を根拠とする。一方、内部監査は任意監査であり、会社内のガバナンス・プロセス、リスク・マネジメント、コントロール(統制手段)の妥当性と有効性を評価し、社内業務の改善に貢献する行為である。それぞれの特徴と監査のフレームワーク及び三様監査の関係について理解を深める。 | ・三様監査の意義を理解し、その理論的枠組みに関する知識を修得している。(知識・理解)○ ・三様監査の知識にもとづき、開示される監査報告書の内容を平易な表現で説明でき、監査意見に対する適切な判断ができる。(思考・判断・表現)◎ ・新聞等の不祥事記事(特に会計不祥事)に関心を持ち、その背景を洞察する意欲を有している。(関心・意欲・態度)○ | |
| 企業評価論 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、企業評価の手法等について学修した後、企業評価を実践して理解を深めることを目的とする。具体的には、企業評価の手法である、マーケット・アプローチ(株式市場での同業他社の取引価格を基礎に算定)、コスト・アプローチ(対象企業を時価評価して企業価値を算定)、インカム・アプローチ(将来の収益をベースに企業価値を算定)の3つについて解説し、企業の現時点での全体的価値の算定について実践を行う。近年は企業評価にあたり、ブランド等の知的無形資産が果たす役割も大きい。 | ・企業評価の必要性や企業評価の様々な方法(手法)について理解できる。(知識・理解)◎ ・企業評価の様々な方法を使って、実際に企業評価を行うことができる。(技能)○ ・企業評価に際してどの評価方法を使うことが適切かを判断できる。(思考・判断・表現)○ ・企業評価に関心を持ち、実践する意欲を有している(関心・意欲・態度)△ | |
| リーダーシップ開発応用演習 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、リーダーシップ開発入門演習ⅠとⅡ、リーダーシップ開発基礎演習での経験等を踏まえつつ、「自分らしいリーダーシップ」を発揮したり、他者が発揮するリーダーシップを支援したりすることで、より自己理解・他者理解を深めていく。グループのアウトプットを最大化するためにはどうすればよいか、困難な状況にある際、どのように共有し乗り越えていくか等、相互フィードバックを通じて、他者と協働していく力を高めていく。自分らしいリーダーシップの発揮と他者や他グループのリーダーシップの支援を行うことで、クラスをラーニングコミュニティにする関心・意欲・態度を醸成する。 | ・自己理解の深化と多様な他者を理解し受容することの必要性を理解する。(知識・理解)△ ・自分らしいリーダーシップの発揮に必要なコミュニケーションスキルを適切に使えるようになる。(技能)△ ・チームのアウトプットを最大化するためにはどのように困難を乗り越えるか、どのようなリーダーシップを発揮しチームの成果に貢献できるかを考え、共有することができる。(思考・判断・表現)◎ ・自分らしいリーダーシップを発揮することへの関心を高め、メンバーの参画意欲と学習態度を高める支援行動を起こせるようになる。(関心・意欲・態度)◎ | |
| ファシリテーション基礎演習A | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、ファシリテーションがビジネスの現場で必要とされる理由を理解し、企業等における会議や打合せ、また、課題を解決するために編成するワーキングチームやプロジェクト活動等の特徴を学び、合意形成、相互理解のサポート及び組織や参加者の活性化を促進するための知識と技能を修得する。具体的には、ロールプレイングの手法により、ビジネスの場を想定した疑似プロジェクト活動を行い、グループメンバーが様々な役割を担い発言する。ファシリテーターは学んだ知識を活用し、円滑なプロジェクト運営を実践する。ロールプレイング後、自らの振り返りとともに、教員やグループメンバーからフィードバックをもらうことで改善点を把握する。ロールプレイングは複数繰り返し、メンバー全員がファシリテーターを担い、全員がファシリテーションスキルを高める。 | ・ファシリテーションとは何か理解している。(知識・理解)△ ・ファシリテーションに必要なスキルを身に付け、発揮することができる。(技能)○ ・ファシリテーターに必要な心構えを理解し表現することができる。(思考・判断・表現)○ ・ファシリテーターとして他者と積極的に関わることができる。(関心・意欲・態度)◎ | |
| ファシリテーション基礎演習B | ビジネス学部 専門発展科目 | ビジネスの現場におけるファシリテーターは、多様な人々の積極性を引き出し、それぞれの視点、考えや発想を可能な限り活用し、会議や打合せを円滑に進行することが求められ、アイデンティティ、モチベーション、能力、価値観等、個々の違いからさまざまな課題と向き合うことになる。この科目では、実際にビジネス上の会議等で起こりうる論点のズレ、主張の対立、議論の停滞等の事例を取り上げ、グループワークを通じてその原因分析を行うとともに、実践すべきファシリテーション方法をまとめる。その後、グループごとにプレゼンテーションを行い、教員及び他のグループからのフィードバックを受ける。テーマに応じて、ビジネスの現場で活躍するゲストスピーカーを招聘し、実務経験を通じた解説を組み込むことで、学修効果を高める。 | ・ファシリテーションとは何か理解し、説明することができる。(知識・理解)△ ・会議の事前時と事後を含めたプロセスの全体設計を行うことができる。(技能)○ ・話し合いの目的を明確にするための適切な表現ができ、事前準備及び事後フォローの留意点を示すことができる。(思考・判断・表現)○ ・ファシリテーターとして他者と積極的に関わりながら、問題解決に向けた支援ができる。(関心・意欲・態度)◎ | |

| 科目名 | 科目区分 | 科目概要 | 到達目標(成績評価A) | 単位修得目標(成績評価C) |
|---------------|------------------|--|--|---------------|
| チームコーチング基礎演習A | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、ビジネス等の現場で、チームや組織のメンバーがそれぞれ役割に応じて主体的に動き、責任をもって最後までやり遂げられるように環境を整えながら支援する、コーチングの基礎を身につけることを目的とする。具体的には、コーチングとは何か、コーチの役割とは何か、ビジネスのシーンで、どのような時になぜコーチングが必要なのかを理解するとともに、基礎的なコーチングスキル(状況説明のスキル、発問のスキル、傾聴のスキル)を理解する。修得した知識を実践できるようにグループワークを随所に盛り込むことで、コーチングの基礎的な理論と実践能力の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コーチングとは何か理解している。(知識・理解)△ ・基礎的なコーチングスキルを身につけ、グループワークの中で適切に発揮することができる。(技能)○ ・チームの環境を整えるために役割に応じた適切な状況説明や発問ができる。(思考・判断・表現)○ ・他者の主体性を引き出し、責任をもって最後までやり遂げる支援ができる。(関心・意欲・態度)◎ | |
| チームコーチング基礎演習B | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、具体的なビジネス等の現場を想定し、他者との関係性を踏まえ、個性を尊重し、個性を発揮できるコーチングスキルを修得する。具体的には、モチベーションが低下しているメンバーと高いメンバーへのコーチングの違い、同僚の支援が得意なメンバーと不得手なメンバーに対するアプローチ、多様な価値観を持つメンバーが目標を達成するために協働するコーチング等、信頼関係を構築し、状況に応じたコーチングスキルが発揮できることを目指す。ロールプレイ、フィードバック、グループワークを多く取り入れ、コーチングスキル(傾聴技法、個性感知、質問技法)を体験的に学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コーチングとは何か理解し、説明することができる。(知識・理解)△ ・ビジネスの現場を想定した場において、他者との関係性を踏まえ、個性を尊重しながら、個性を発揮できるコーチングができる。(技能)○ ・質問技法を用いた適切な表現により、他者の個性を引き出すことができる。(思考・判断・表現)○ ・適切なコーチングを用いながら、チームを引っ張り、チームを支え、導くことに強い意欲をもつ。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 3年ゼミナール | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、4年次において卒業論文に向けた研究を進める上で必要となる様々な社会科学的方法、すなわち、社会科学が要請する思考法や技術、姿勢などを、少人数のゼミナール形式による双方向型の学びを通じて修得することを目的とする。具体的な活動内容としては、文献講読、統計資料や財務資料等の読解・分析、実地見学、担当教員や実務家等との人的交流等が挙げられるが、各ゼミナールのテーマや活動内容は担当教員の専門性を踏まえて独自に設定されるため、多様となる。学生は自分の関心に基づいてゼミナールを選択し、それまでに各自が学んできたことを活かしながら、各ゼミナールの活動に積極的に参加することで学修をすすめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学修を通じて、研究課題の設定や研究レポートの作成に必要な知識を修得している。(知識・理解)◎ ・グループ学修を通じて、必要となる技能を学修し、活用できるようになる。(技能)◎ ・文献講読、統計資料や財務資料等の読解・分析を行い、その内容を結果として適切に表現できるようになる。(思考・判断・表現)◎ ・ゼミ活動全般について他者と協働しながら建設的な意見交換を行い、課題解決しようとする意欲を持つことができるようになる。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 4年ゼミナール | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、学生が所属するゼミナールにおいて、3年次からの社会科学的方法の学修の継続に加え、担当教員の指導の下で進めている研究の報告や意見交換を行う。4年次では3年次ゼミナールから学修している社会科学的方法を基に、各自が卒業論文に向けて研究課題を設定し、調査し、解明へと接近することになるが、研究課題設定や調査方法、解明に向けた接近方法が適切であるかどうかを絶えず検討しながら研究をすすめていく必要がある。そのためには調査・研究の自律的遂行のみならず、ゼミナールにおける発表・討議といったコミュニケーションも軸となる。自分や他の学生の研究について、繰り返し他者と対話し・読み・書き・考えるといった重要な基礎的作業を通じて、1年次から学んできたことを結実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学修を通じて、研究課題の分析、研究計画書の作成、データの収集・分析に必要な知識を修得している。(知識・理解)◎ ・グループ学修を通じて、必要となる専門的な技能を学修し、その活用について3年次よりも高いレベルで行うことができる。(技能)◎ ・他者とのコミュニケーションを通じて、課題を発見し、文献調査、分析等を行いながら、論理的に自らの考えを表現できるようになる。(思考・判断・表現)◎ ・ゼミ活動全般について他者と協働しながら建設的な意見交換を行い、課題解決しようとする意欲を3年次より高いレベルで持つことができるようになる。(関心・意欲・態度)◎ | |
| 卒業論文 | ビジネス学部 専門発展科目 | この科目は、学生は各自の研究内容を論文にまとめ、発表できるように担当教員から指導を受ける。具体的には、卒業論文の意義や目的を明らかにした上で、研究課題の設定、方法論の検討、調査、結論の導出といった一連の作業を、担当教員による個別面談等きめ細やかな指導の下で進め、報告・討議などを繰り返しながら、論文が完成できるように指導する。学生がこれまで学修した知識、思考力、姿勢等、学修成果の総集と呼ぶにふさわしい卒業論文の完成と発表を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の執筆・準備を通じて、研究課題に関わる必要十分な知識を理解できるようになる。(知識・理解)◎ ・卒業論文の執筆を通じて、研究課題に関わる必要十分な技能の学修やその活用を行うことができる。(技能)◎ ・論理的に物事を捉えつつ、自らの考えを的確に表現できるようになる。(思考・判断・表現)◎ ・卒業論文作成における調査・議論・執筆の各段階において手順や頻度を落とすことなく着実に研究活動を遂行し、4年間で学修した諸能力を現実のビジネスの場で活かす意欲を示すことができる。(関心・意欲・態度)◎ | |